デラウェア大学における基礎看護教育

村上　生美

要旨　2000年秋学期のはじめを米国東海岸デラウエア州、University of DelawareのDepartment of Nursingで過ごす機会を得た。主として学士課程のプログラムを中心に、米国の基礎看護教育がどのように行われているか、実際に触れることができた。学部の理念は「人間」「環境」「健康」「看護」を基本概念に据え、カリキュラムの目標、引き出したい学生の能力、教員の役割等を明確にしていた。各教科目の単位数は大きく、複数の教員で担当していた。時間割の範囲では、学生にはゆとりの時間が保証されているようであったが、教科の内容は膨大で、講義進度は速く、宿題・試験回数もわが国とは比較にならないものに見えた。講義と実習はブロックされておらず、講義・学内演習・老人ホーム実習・病院実習がうまくリンクしていた。新入生から卒業要件は120単位と減じ、カリキュラムも整理されたようである。看護先進国であることを痛感したが、教育における挑戦は共通点も多かった。

キーワード：看護基礎教育（学士課程）・University of Delaware・カリキュラム・教育方法

1　はじめに

筆者は、2000年８、９月を米国東海岸Delaware州Newark市にあるUniversity of Delawareに出張する機会を得、そこで行われている看護教育の一端に触れることができた。渡米した時期は秋学期の開始前、キャンパスには学生数はまばらであったが、そのうち学生が大学内ブックストアにあふれ新しい学期が始まった。短期間であったが、講義・グループワーク・演習（ヘルスアセスメント）等を見学し、科目の担当教員と話すことができた。

わが国の看護における高等教育化は、米国に遅れる事20年、30年あるいは50年とも言われる。米国における看護の高等教育化は周知の通り、日本の遙か前方にあり、多様な教育コースが準備されている。University of Delawareの学士課程を例に取れば、2000年秋期現在で次の３つのコースが700名定員で開かれていた。

Basic Nursing Program（一般の看護学学士課程）
Accelerated Nursing Program（学士入学者の課程）
Baccalaureate for the Registered Nurse Major
（看護婦有資格者のための学士課程）

筆者は４年制大学の基礎看護学講座に属し、その部門の講義・演習・実習を担当しているので、本稿では「Basic Nursing Program」に焦点を絞って、見聞し考えたことの一端を述べる。

2　University of Delawareの Department of Nursing

University of DelawareのDepartment of Nursingには40年の伝統がある。1962年にArt of Scienceとして設立され、1966年には、看護学独自の大学として認可された。1990年にはNursing 以外にMedical Technology、Nutrition and Dietetics、Health and Exercise Sciencesを増設し、College of Health and Nursing Scienceと改名された。大学院教育は1968年に始まり今日に至っている。

現在のChair Person Dr.Selekmanによれば、Department of Nursing のフィロソフィは30年前に看護教員全員に呼びかけて、討議し作成したそうである。それは、教員の責務として教育・研究・社会的貢献があること、人間や人間が存在する社会に向ける包括的視点、健康が多様な要因でダイナミック

に変化すること、看護職は専門職としての責務があること、学生と教員が相互に共同することによって学生は内的成長を遂げるものであるなど、「人間」「環境」「健康」「看護」の概念を中心に教育理念が立てられている。

Department of Nursing では学部のフィロソフィに基づいて、カリキュラムの目標が立てられ、次いでその目標を教科の中で具体化していくという仕組みになっている。カリキュラムの目標にはどの教科目にも概ね共通のものが９項目ある。たとえば、看護実践のために多様な領域の知識を統合すること、「Nursing Process」の概念を駆使すること、看護を前進させるために研究成果を批判的に活用すること、社会におけるニーズに答えるためにリーダーシップの技術を活用すること、専門的看護実践に関連した決定において合法的、倫理的であること等である。

Department of Nursing の学生数は、学士課程の学生360 名、学士入学の学生42名、Registered Nurse（日本の正看護婦に該当）からBachelor of Science のDegree（学士の学位、以下BS）取得目的で入学している学生300 名であった。わが国の大学に比較してマンモスといえるが、ここではマンモスの理由は主としてBS Degree 取得目的の学生数の多さによるものといえよう。筆者は主として学士課程の学生とかかわりを持ったが、講義室は広く、１学年90名はマンモスに感じられなかったことと、演習やグループワークは、小さな単位に分かれて行われていたので、学生数の多さを実感するには至らなかった。学士課程の学生の中には「孫がいる」という女性もいて、「来る者拒まず」といったアメリカの懐の深さだけでなく、近未来の日本をかいま見た思いであった。

Department of Nursing の教員組織について、筆者が経験した印象によれば、例えば、学内において行われていた「ヘルスアセスメント」の演習では学生５～６名に対し、教員１名という、豊かな指導体制であった。全教員数はChair Personを入れて49名である。University of Delawareは、医学部がないだけの総合大学であり、看護学以外の講義は、他学部の教員によって担われているとのことであるが、前述した３コースの学士課程700名、修士課程100名の多様な課程の教育を考えると、教員数を単純に評価することはできず、Chair Personによれば教員数は少ないとのことである。教員の平均年齢は50歳とのこと、若い教員には出会わなかった。教員は全員、看護学の専攻で、女性が圧倒的多数であり男性教員は２名であった。尚、学士課程の男子学生は約７％とのことであるからわが国より多い。

わが国の大学の教員組織から「講座制」を例に、質問したが、University of Delawareにおいては講座制のような組織はなかった。教員は、各自担当したい教科目（コース、これはChair Personが決定する）をChair Personに申請し、認められて担当するとのことである。教員の身分はProfessor, Associate Professor、Assistant Professor、Clinical Instructor、Nursing Instructor、Clinical Educator等、わが国に比較して、役割が明確になっているようであった。教員には兼業が許されており、各自、時間をコントロールして病院などで臨床能力を磨くということであった。

筆者は、大学における、Evidence Based Nursing に関する実験研究の必要性を痛感し、基礎看護技術を課題に試行錯誤の連続であるので、米国の看護学の教員が、実験研究をどのように展開しているか関心を持っていたが、学部内にはそれらしい実験室は見あたらなかった。数名の教員に質問してみたところによれば、アメリカにおいては看護学の基礎研究はすでに頂点に到達しているとの見解、あるいは実験研究より解決が急がれる具体的課題が多いこと、実験研究による経済効果は期待できない、といった理由で実験研究が行われていないことが推測できた。

3　学士課程のカリキュラムと教育活動

米国は周知の通り、秋学期から始まる。2000年度はたまたま、新入生からカリキュラムを改正する時期に当たり、筆者は新旧２つのカリキュラムに出合うこととなった。実際には２、３年生のカリキュラムの一部に参加したのみであったが、カリキュラムの変更についてChair Personから説明を受けることができた。以下、新旧比較しながらカリキュラムと教育活動について述べる。

旧カリキュラムの卒業要件は126 単位、新カリキュラムは６単位減少して120 単位となった（表１・２）。この改正は、卒業要件を他学部に揃えると同

Table 1

UNIVERSITY OF DELAWARE

Department of Nursing Curriculum Plan (OLD)

FRESHMAN YEAR			
Fall	Credits	Spring	Credits
Introduction Biology I	4	Introduction Biology II	4
General Chemistry	5	Elementary Bioorganic Chemistry	5
Level or higher	3	Critical Reading and Writing	3
Level or higher	3	Basic Statistical Practice	3
Total	15	Total	15

SOPHOMORE YEAR			
Human Physiology OR		Intro. to Microbiology OR	
Intro. to Microbiology	4	Human Physiology	4
Issues in Life Span Development	3	General Psychology	3
Nutrition Concept	3	Expository Writing	3
Level or higher	3	Societal Context of Nursing	3
Literature	3	Concepts in Pathophysiology	3
		Basic Nursing Practice Skills	1
Total	16	Total	17

JUNIOR YEAR			
Determinants of Wellness	5	Restorative Nursing Practice I	4
Practicum I	4	Practicum II	3
Pathophysiology	3	Practicum III OR	
Psychopathology	2	Practicum IV	3
		Pharmacological Nsg.Responsibility	3
		RestrictedElect.	3
Total	14	Total	16

SENIOR YEAR			
Introduction to Research	3	Professionalism in Nursing	2
Restorative Nursing Practice II	4	Practicum VIII	6
Practicum V	3	Topics in Health Care Delivery	3
Practicum VI OR		Restricted Elective	3
Practicum VII	3	Free Elective	3
Free Elective	3		
Total	16	Total	17

Table 2

UNIVERSITY OF DELAWARE
Department of Nursing Curriculum Plan (NEW)

FRESHMAN YEAR			
Fall	Credits	Spring	Credits
Introductory Biology I	4	Elementary Bioorganic Chemistry	5
General Chemistry	4	ANATOMY	2
General Psychology	3	Critical Reading and Writing	3
ELECTIVE	3	ELECTIVE	3
		New Student Connections	1
Total	14	Total	14

SOPHOMORE YEAR			
Human Physiology and Anatomy	4	Introduction to Microbiology	4
Life Span Development	3	Foundations of Nursing	3
Nutrition Concepts	3	Pharmacology	3
ELECTIVE	3	Scientific Base of Nursing	5
Concepts of Nursing Practice	3		
Total	16	Total	15

JUNIOR YEAR			
Nursing Care of Adults	2	Nursing Care : Children/Families	2
Clinical Applications : Adult I	3	Clinical :Children/Families	3
Psychosocial Nursing	2	Nursing Care : Childbearing	2
Clinical Applications : Psych	3	Clinical : Childbearing Family	3
Basic Statistical Practice	3	Research Concepts in Health Care	3
SECOND WRITING	3	ELECTIVE	3
Total	16	Total	16

SENIOR YEAR			
Nursing Care of Adults II	3	NURS 411	3
Clinical Applications : Adults II	3	Professional Practice	2
Nursing of Populations	2	Senior Preceptorship	6
Clinical Applications: Community	4	ELECTIVE	3
ELECTIVE	3		
Total	15	Total	14

時に過密カリキュラムを解消することが主な理由のようであった。新旧カリキュラムとも、各教科目の単位数が大きく、旧カリキュラムは4年間で38科目、1科目平均単位数は3.3単位、新カリキュラムは同様に39科目、3.1単位であった。したがって、学生は各セメスターにおける受講科目数は少なく、4～6科目であった。

1セメスターは14週、単位は、講義の場合1週間に行う時間数によって1時間につき1単位、Clinical（演習）の場合、2～3時間につき1単位という換算であった。現在、NLA（National League for America）では実習の重要性が強調されているということであったが、筆者の滞在した秋学期の場合、4年次生の病院実習は2科目、6単位で、毎週水・木曜日の2日間であった。4年次生の時間割表をみる範囲では、わが国に比してゆとりを感じた（表3）。

旧カリキュラムでは、看護学の専門教育を2年次春期（後期）から行っていたが、新カリキュラムでは半期早めて、2年次秋期に「Concepts of Nursing Practice」が3単位開設された。わが国の場合、入学と同時に、教養教育・専門基礎教育と並行して看護学の専門教育を始めることが多く、新カリキュラムと比較しても1年間の差が認められた。

旧カリキュラムの教科目には、看護学の基礎となる教科目として、わが国と同じ科目も多いが、「Determinants of Wellness」「Restorative Nursing Practice」など、創意が感じられ興味深いものが見受けられた。「Restorative Nursing PracticeⅡ」は、3年次春期の4単位に続いて開設されているものであった。始まったばかりの4年生の授業を数回見学したので紹介する。「Restorative Nursing」の概念は、病気や健康障害によって日常から逸脱したクライエントに焦点を当てたもので、彼が元の健康状態に戻るための看護を探求するものである。

この授業は4単位であるから、1週間に4時間、月・金曜日に2時間ずつ、3名の教員によって行われる。見学した講義のテーマは「Cancer」「Chronic Pain」「Pancreatic Deficits」であった。あらかじめ学生が購入しているワークブックに従って、パワーポインターを駆使して行われた。「Cancer」では、治療と看護について広範囲にわたる一般論の講義を2回、4時間で行っていた。「Cancer」の対象は成人に限らず、小児についても後に教授する予定になっていた。旧カリキュラムにおいては、1つの教科目にすべての世代あるいは家族やコミュニティが包含されているようであった。新カリキュラムには「Children/Family」「Adult」「Community」といった文言が見られる。

ワークブックで判断する限りにおいては、講義目標の高さ、講義前後に学生に課せられる課題（復習・予習のみならず、インターネットを活用しての情報収集に至るまで）が多く、米国の学生も多忙を極めている様子がうかがわれたが、ある教員によれば、学生の学習態度には必ずしも満足していないということであった。筆者は講義において、「Cancer」

Table 3　　時間割表　SENIOR YEAR 2000

曜日	午前	午後
月	Restorative Nursing Practice	Introduction to Research
火		
水	Hospital	Hospital
木	Hospital	Hospital
金	Restorative Nursing Practice	

であれば、看護を学としてどのように組み立てて教育しているか、大いに関心を持ったが、治療学のしっかりした基盤の上にCareを位置づけているようであった。

「Restorative Nursing PracticeⅡ」（４単位）のワークブックは323ページで編集されていた。テキストブックは、ワークブックの他４冊、推薦図書１冊であった。この教科目に限らず、ワークブックは膨大な量であった。１回の講義範囲は非常に広く、したがって進度が速く、時として学生から溜息も聞かれた。学生のゆとりある時間割は、これらの講義を理解するための学習に当てられなければ、講義の進度に追いつかないばかりか、振り落とされてしまう。筆者が質問した学生は、講義の予習と復習に各１時間かけていると話していた。４年次生は講義中、パンを食べたり、コーヒーを飲んだりしている者もいたが、私語はなく、教師の質問に対する反応も早く、講義終了後は５，６人だが質問の列ができていた。米国は、学生の学習コースが具体的に準備され、入学と同時に「エスカレーター」に乗せられ、ノルマをひたすらこなさなければ簡単に卒業できないといったハードな学生生活を想像したが、聴講している学生は屈託なく明朗で弾んでいるようであった。

筆者はまた、３年次生の「PracticumⅠ」（４単位）の演習を見学した。教科目の主題は「ヘルスアセスメント」であり、人間全体、いわゆるHead to Toeを身体の側面だけでなく、心理・社会文化的側面にわたってアセスメントする学習である。講義・学内における演習・地域の老人ホームなどでの実習を短期間にリンクさせること、老人・成人、母性・新生児、コミュニティと、あらゆる対象に範囲を広げて教授するためか、教員も多く、ワークブックによると教員数は12名、教育方法は講義・自己学習も含めて13項目の記述であった。

筆者が見学した演習は、最初の１回目であった。学生はペアになり、ワークブックのチェックリストにそって、インタビューしながら観察・測定する。３組の学生に教員１人が指導に当たっていた。午前中の2.5時間に果たす課題は「General Assessment and Vital Signs」「Skin」「Hair」「Nail」「Head and Neck」で、詳細な内容を一人でできるまで行い最終的に教員が確認して終了するという展開であった。この演習に先駆けて前日、演習内容に関する講義が行われていて、演習翌週は老人ホームで実際に観察するそうである。４年次の病院実習までにヘルスアセスメントが実践できることが目標である。学生があらかじめ示されたガイドラインに従って演習している様子は、一見するとスムーズではあったが、教員はつねに「何故そうするのか？」を問題にしていたようで、観察や実践の意味や根拠を重要視していることはわが国にも共通することであった。

教育評価・単位認定は、あらかじめワークブックに詳細に記述してある。各セメスターに５、６回の試験をする。たとえば４回講義をして試験をするといった具合である。１回の試験のみで評価した場合、学生にとって平等性を欠く、たまたま失敗した場合救われない等の理由が話されていたが、頻回の試験は学生をいやがうえにも学習に向けるということも推測できる。評価の段階は、わが国においては「優・良・可・不可」といった程度であるが、University of Delawareでは60点以上を10段階以上の詳細に分けている科目もあった。

4　おわりに

筆者は初めて米国を訪問した。日本の看護の近代化に米国の果たした役割は大きく、殊に看護教育における影響は計り知れない。日本では看護独自のモデルの開発や、看護学中心に教育をどのように設計するか、古くからの課題に対して苦悩しているが、看護先進国の米国ではどのようにしているのか？また、筆者が担当している基礎看護学の領域はどのように教育されているか？　いくつかの目標を意識して訪問した。University of Delawareでは、Chair PersonのJanice Selekman, DNSc, RNの格別な配慮ですべての希望を聞き入れていただいた。わが国との大いなる相違点、あるいは共通点など、様々な場面に直面して、短期間ではあったが、考えることが多かった。米国の看護教育については多くの報告があり、筆者の経験した内容は周知のことかと考えるが、なにがしかの参考になればと考えて報告した。

付記

University of DelawareのあるNewark市には学生時代の親友Ms.Minori Thorpe一家が住んでいて、彼女は看護麻酔士としてフルタイムで働き、ご主人はUniversity of DelawareのDepartment of Chemistryの

教授であるが看護学部の生化学の講義も担当している。彼らの好意に甘え、あわただしい渡米準備にも関わらず、滞米中を非常に有意義に過ごすことができた。Dr.Colin Thorpe にはDepartment of Nursingとの仲介の労を執っていただき、夏期休業中にもかかわらずスムースに手続きを進めることができた。Ms.Minoriには多くの時間を割いて通訳をしていただいた。また帰国後レポートを出すように勧めていただいた。その助言がなければ、筆者の経験は個人的に終わったと思われる。心から感謝の意を捧げる。

またDepartment of NursingではProfessor and Chair のJanice Selekman ,DNSc,RNに多大の配慮をいただいた。飛び込みでクラスに入り、講義・演習・グループワークを見学したこともしばしばであった。どこでも快く受け入れてもらうことができた。教員、学生の皆様に感謝の意を捧げる。